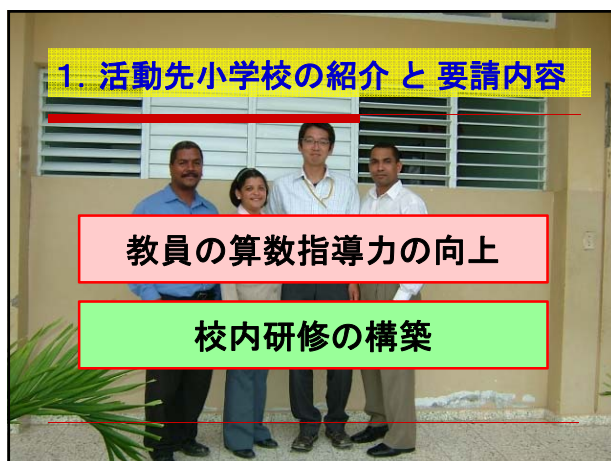
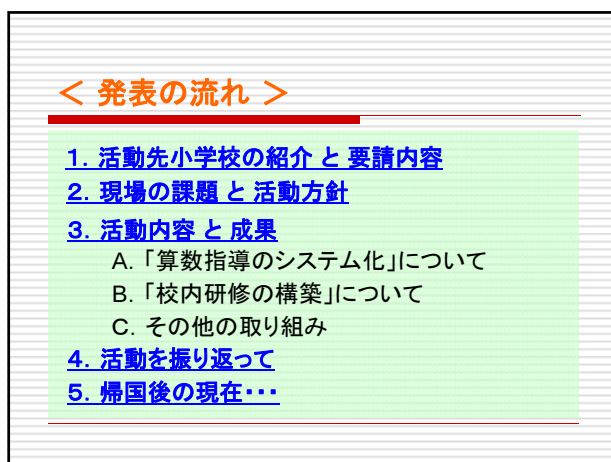
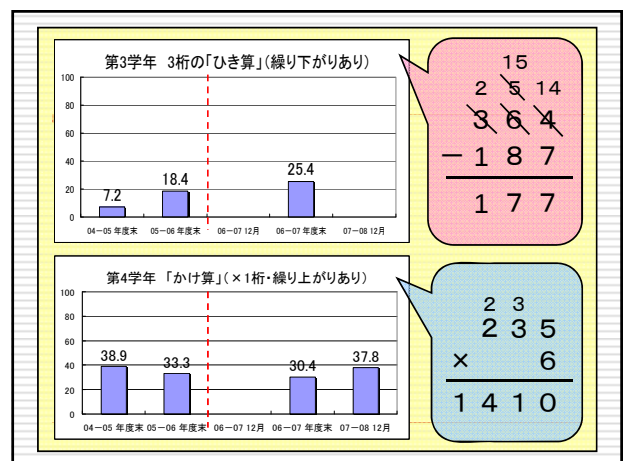
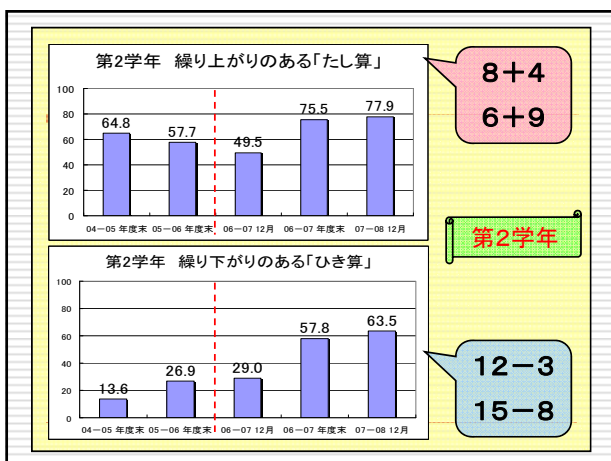
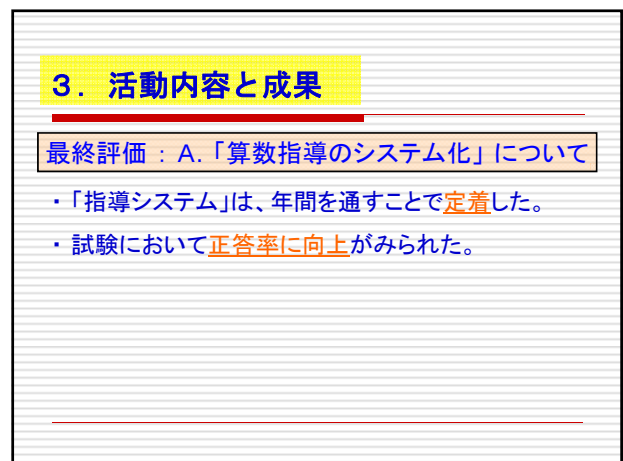
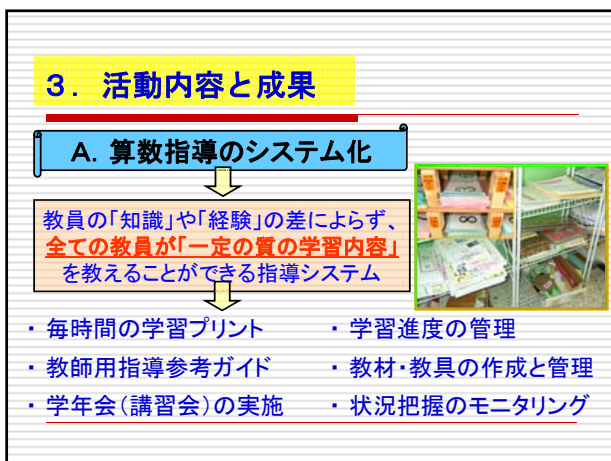
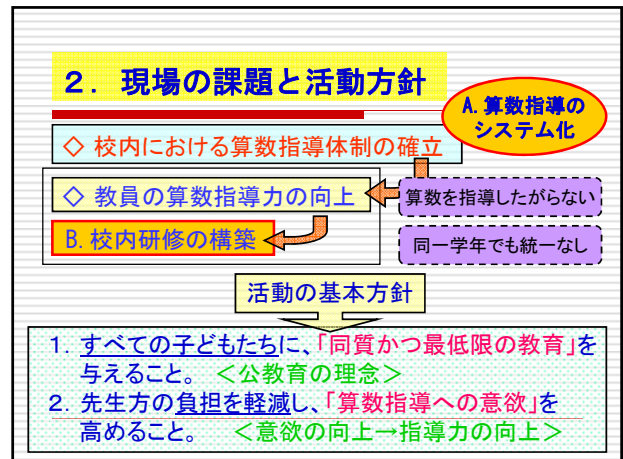
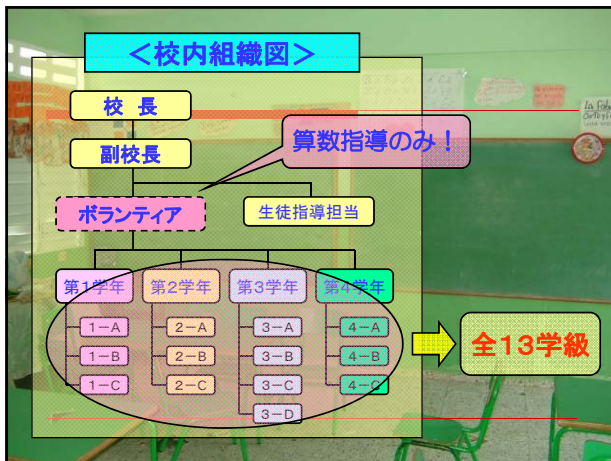


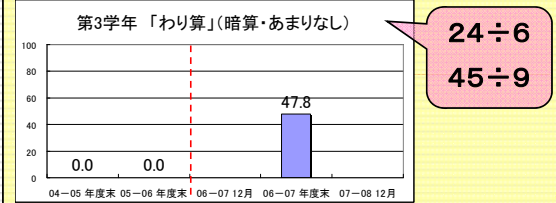




3. 活動内容と成果

最終評価：A.「算数指導のシステム化」について

- ・「指導システム」は、年間を通すことで定着した。
- ・試験において正答率に向上がみられた。
- ・一年間にこれまでにない新しい単元を指導することができた。



第4学年

昨年度よりも、6つの新しい学習が行える！

× 2桁のかけ算

1/10の位までの小数

わり算の筆算(÷2桁)

わり算の筆算(÷1桁)

分数の導入

ローマ数字

3. 活動の取組と最終評価

最終評価：A.「算数指導のシステム化」について

- ・「指導システム」は、年間を通すことで定着した。
- ・試験において正答率に向上がみられた。
- ・一年間にこれまでにない新しい単元を指導することができた。
- ・「指導システム」の運営を現場教員に移行できた。
→「各学年のリーダー」と「調整役」の働きのおかげ

3. 活動内容と成果

B.「校内研修の構築」について

- ◇ 年間を通した「研究テーマ」の設定
→「子どもたちのプリントの
効果的な丸付けの方法を探ろう！」
- ◇ 「研究通信」の発行
- ◇ 「校内公開授業」・・・

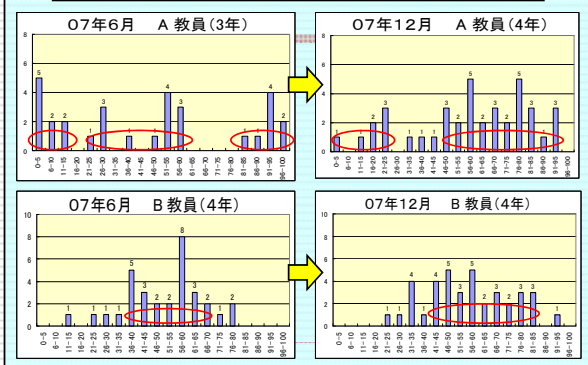


3. 活動内容と成果

最終評価：B.「校内研修の構築」について

- ・ 5名の教員の指導に変化が見られた。

教員の指導の変化



3. 活動の取組と最終評価

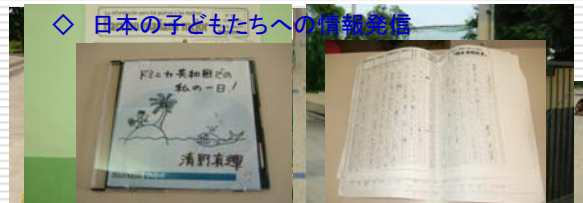
最終評価：B.「校内研修の構築」について

- ・5名の教員の指導に変化が見られた。
- ・校内での公開授業に関心をもつ教員が出てきた。
- ・校内公開授業は、実施できなかった。
→ 持続可能な定着までは、至らなかった。

3. 活動内容と成果

C. その他の取り組み

- ◇ 「算数を生活の中に・・・」プロジェクト
- ◇ 保護者への教育情報発信
- ◇ 日本の子どもたちへの情報発信



4. 活動を振り返って

1. 公教育という視点を持ち、基本的な指導体制を確立する！

- ・同一学年内での進度の管理、学年会での学習内容・指導法の確認など

2. 現場の課題は何か、明確に見極める！

- ・「正しく教えても、子どもたちが覚えてくれない・・・。」

3. 「教授法の神話」からの脱却を！

- ・教師の仕事とは、「教えること」ではなく、「子どもに学習を定着させること」

4. まずは「基本的な授業スタイル」を身につける！

- ・指導力の向上には段階がある。いきなり“日本のまね”は無理。

「教授する」→「習熟させる(練習問題)」→「評価する(丸付け)」

4. 活動を振り返って

「教授する」→「習熟させる(練習問題)」→「評価する(丸付け)」

5. 子どもたちに“十分な練習問題”を与える！

- ・「学校だけ」が教育の場。学校で習熟させなければならない。

6. 時間内に“丸付け”をする技術を身につけさせる！

- ・子どもに“よくできているよ”と自信をもたせなければならない。

7. 校内研究授業は、「テーマ」&「質より量」で！

- ・先生方の関心は高い。積極的に挑戦すべき。



5. 帰国後の現在



ご清聴、ありがとうございました。